

# チャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) とカオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ (Cao Đài Minh Chơn Đạo) の形成過程

高 津 茂\*

## はじめに

これまでのカオダイ教に関する理解と研究は、資料的制約や政治状況も反映されて、最大多数派であるタイニン聖座派 (Tòa Thánh Tây ninh) の出版になる資料もしくは同派に近い立場からの理解に基づいたもの<sup>(1)</sup>が中心であった。カオダイ教に複数の他の宗派がある<sup>(2)</sup>ことは理解していても、タイニン聖座<sup>(3)</sup>派以外の各派の所在地や現在の代表者すら明らかでない<sup>(4)</sup>ままにカオダイ教に関する理解が進められてきた。それは、タイニン聖座派以外の宗派の資料は極めて入手しがたい状況にあったためである。

しかし、ドイモイの影響からか、21世紀になり解放勢力側にあったカオダイ教各派の資料を利用したヴェトナムにおけるカオダイを含む宗教研究の成果<sup>(5)</sup>が発表されたり、タイニン聖座派以外のカオダイ各派が独自に雑誌を公刊するなど<sup>(6)</sup>の動きが見られるようになってきた。

従来のカオダイ教研究の視点の一つが、日本の軍事力を利用してフランスからの独立の回復を画策したカオダイ・タイニン聖座派と日本との関係にあった<sup>(7)</sup>。その一方で日本やフランスやアメリカに頼ることなく、民族の独立を求めて抗仏・抗米闘争を積極的に戦い抜いたカオダイ各派があった。本稿ではその一つであるミン・チョン・ダオの創設者チャン・ダオ・クワンと同派の形成過程について整理することで、民族解放闘争の先頭に立って戦った同派の

成立過程の初期の性格を明らかにするとともに、カオダイ教がもつ分裂と分化の歴史の一部を明らかにせんとするものである。

## 1. チャン・ダオ・クワン小史

カオダイ教が宗教教団としてフランス植民地政庁の認可を申請したのは1926年9月29日のことであるが、その申請書に署名した28名<sup>(8)</sup>の中にミン・チョン・ダオを創設したチャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) の名がある。

まずはミン・チョン・ダオの創設者であるゴック・チュオン・ファップ (Ngọc Chương Pháp 玉掌法)<sup>(9)</sup>チャン・ダオ・クワンの小史<sup>(10)</sup>と修行のあり様を、ティエン・タム (Thiện Tâm) 「カオダイ・ミン・チョン・ダオ聖会 (Hội Thánh Cao Đài Minh Chơn Đạo) の形成と発展過程」<sup>(11)</sup>によりながら記すこととする。

### (1) チャン・ダオ、クワンの生い立ち

チャン・ダオ・クワンの俗名はチャン・ヴァン・クワン (Trần Văn Quang) であり、1870年11月10日に、現在のティエン・ザン省 (tỉnh Tiền Giang) であるミー・トオ (Mỹ Tho) のカイ・ライ県 (huyện Cai Lậy) バン・ザイ (Ban Dầy) に生まれた。生みの親は、父がチャン・チ・ヒェウ (Trần Chí Hiếu) 母がズウオン・ミー・ハウ (Dương Mỹ Hậu) である。両親はミン・ス派 (Phái Minh Sư)<sup>(12)</sup>にきわめて熱心であったので、少年のときから常に父に従って寺へ行き教えを聴いた。14歳のとき、齋戒・持

戒して教を修めるために寺に入ることを発願した。両親は彼の決心を見て、喜んで出家に同意し、チャン・ダオ・クワン老師 (Lão Sư Trần Đạo Cửu) に教を修めることを諭し導くことを引き受けてくれるように依頼した。23歳までひたすら修行に精進し、「一乗の階 (bậc Nhất thừa)」を修了した。さらに37歳にして「二乗 (Nhị thừa)」の成分を完遂し、「証恩—勅恩—宝恩 (Chứng Ân—Sắc Ân—Bảo Ân)」の三の階に上った。

チャン・ダオ・クワンはカオダイ教での法名であり、後述するようにカオダイ教への帰依が1925年であるとする、56歳以降の名となる。本名はチャン・ヴァン・クワンであることが知れるが本稿では混乱を避けるためチャン・ダオ・クワンで統一して記述することとするが、1906年まではミン・ス道の僧侶 (職色<sup>(13)</sup>) として人生の過半を過ごしてきたことが知れる。

## (2) 三期普度 (Tam Kỳ Phổ Độ) に帰依した時期

(三度目の) 中部における伝道 (ミン・ス (Minh Sư)) を準備していたとき、教えのために壇に仕える<sup>(14)</sup> よう諭されたゴック・ホアン・トゥオン・デエ (Ngọc Hoàng Thượng Đế 玉皇上帝<sup>(15)</sup>) の命があったため、チャン・ダオ・クワンはレ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung), レ・バア・チャン (Lê Bá Trang), ヴウオン・クワン・キイ (Vương Quang Kỳ), カオ・クワン・クウ (Cao Quỳnh Cư) の各氏<sup>(16)</sup> の招きを得た<sup>(17)</sup>。

1925年9月9日子の刻ちょうどにリン・クワン・トゥ (Linh Quang Tự 靈光寺)<sup>(18)</sup> において壇機が設けられた。ゴック・ホアン・トゥオン・デエが機に降って、チャン・ダオ・クワンにカオダイ・ダイ・ダオ・タム・キイ・フォ・ドオ (Cao Đài Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ 高台大道三期普度) に帰依するように諭された。その後チャン・ダオ・クワンは命に従い、1927年 (タイ

ニン (Tây Ninh) - ゴ・ケン (Gò Kén) の) トウ・ラム・トゥ (Tứ Lâm Tự 慈林寺) に上り壇に仕え、上帝よりチャン・ダオ・クワンはゴック・チュオン・ファップ (Ngọc Chương Pháp 玉掌法) に、グウエン・ゴック・トゥオン (Nguyễn Ngọc Tương)<sup>(19)</sup> はトゥオン・チュオン・ファップ (Thượng Chương Pháp 尚掌法) に、そしてニュ・ニャン (Như Nhân) 和尚 (Hòa Thượng) はタイ・チュオン・ファップ (Thái Chương Pháp 太掌法) の品位に封じられた。この三位の品はタイニン聖座 (Tòa Thánh Tây Ninh) における最初で、大道三期普度にあつては (ザオ・トン (Giáo Tông 教宗) の権限の下で) 第二番目に高い位であつた。

チャン・ダオ・クワンは56歳でカオダイ教に入信し、57歳のときにカオダイ教が教団としての成立を見、58歳で教宗に次ぐ高位の玉掌法という地位に着いた。このことは、後のカオダイ教高僧たちとの出会いが扶乩などの壇機をきっかけとし玉皇上帝の降霊によるものであつたことと考え合わせると、チャン・ダオ・クワンがかなり壇機に通じていたものと思われる。

## (3) ハウ・ザン (Hậu Giang 後江) 方面への布教の最初

1926年10月にカオダイ教は3グループに分かれて南部各省への布教を行った。チャン・ダオ・クワンはトゥオン・チュン・ニュット (Thượng Trung Nhật) やタイ・トオ・タイン (Thái Thơ Thanh) とともに、ヴィン・ロン (Vinh Long), チャ・ヴィン (Trà Vinh), カン・トオ (Cần Thơ), ソク・チャン (Sóc Trăng), バック・リュウ (Bạc Liêu), ロン・スウエン (Long Xuyên), チャウ・ドック (Châu Đốc), ラック・ジャ (Rạch Giá), ハア・ティエン (Hà Tiên) 各省への布教と普度に責任を持った<sup>(20)</sup>。そこでチャン・ダオ・クワンは各ミン・ス道を訪問しカオダイへと導いた。特にチャン・ダオ・クワン自身により現在のバック・リュウ省に

チャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) とカオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ (Cao Đài Minh Chon Đạo) の形成過程

当たる当時のラック・ジャ省フック・ロン県 (huyện Phước Long) に1915年に造られたゴイ・ファット・ドゥオン (Ngôi Phật đường) を訪れ、カオダイ教徒へ改宗させた。さらに、1928年からこの寺がフック・ロン静室<sup>(21)</sup> (Thành Thất Phước Long (これが後のゴック・フック (Ngọc Phước)) となり、此処で Minh Sư の修行をしていた多くの門徒がカオダイ教へ入門した<sup>(22)</sup>。その中にはゴック (Ngọc 玉) 派のレエ・サイ (Lê Sanh 礼生) に封じられゴック・クワン・タイン (Ngọc Cứng Thanh) の法名を持つフック・ロン最初のチャイン・チイ・スウ (Chánh Trị Sư 正治師) となったグウエン・ヴァン・クワン (Nguyễn Văn Cứng (1882-1961)) やザオ・フウ (Giáo Hữu 教友) に封じられ法名トゥオン・ティン・タイン (Thượng Thịnh Thanh) を与えられたチャン・ヴァン・ティン (Trần Văn Thịnh) が含まれていた。

1929-1930年には、チャン・ダオ・クワンは西南部各省での布教と普度という教え広め行う (hành đạo) 仕事に没頭し、タイニン聖座の宗務についてはあまり関与していなかった。同地区ではミン・ス道の太老師 (Thái Lão Sư) の威信で、おそらく壇機を利用しながらチャン・ダオ・クワンは一層多くの信徒を得ていたものと思われる。

#### (4) ゴックの字のつくタイン・タット (Thành Thất 静室)

この時期、多くの静室が新たに造られ、チャン・ダオ・クワンのゴック・チュオン・ファップ (Ngọc Chương Pháp 玉掌法) にちなんで、彼の教えに従ってゴック (Ngọc 玉) の字が付けられた。

①ゴック・ニン・ダン静室 (Thành Thất Ngọc Ninh Đản) : 住所は、バック・リュウ省ホン・ザン県ロク・ニン社バァ・アイ邑 (ấp Bà Ai 2, xã Lộc Ninh, huyện Hồng Dân, tỉnh Bạc Liêu)。真新しい静室は、元はロク・ニン社のデイン (Đình 亭) の神を祀ったものであったが、同地

の農民が共感して静室とするために献上した。戦争を経て3度修復したにもかかわらず、現在は破壊され、ただその基礎だけが蒼天に曝されている。

②ゴック・ミン・ダン静室 (Thành Thất Ngọc Minh Đản), 後のジイオン・ボム静室 (Thành Thất Giồng Bóm<sup>(23)</sup>) : 住所は、古くはバック・リュウ省ジャ・ライ郡フォン・タイン社ジイオン・ボム邑 (ấp Giồng Bóm, xã Phong Thạnh, quận Giá Rai, tỉnh Bạc Liêu), 現在の同郡フォン・タイン・タイ (xã Phong Thạnh Tây) 社に属していた。同静室はグウエン・ヴァン・ギイ (Nguyễn Văn Nghi) とグウエン・ヴァン・ズオン (Nguyễn Văn Đương) の献じた土地<sup>(24)</sup> に立てられた。1934年7月15日に落成式が行われ、ここがハウ・ザン聖座 (Tòa Thánh Hậu Giang) 成立の地として選ばれた。

③ゴック・サック・ダン静室 (Thành Thất Ngọc Sắc Đản) : 住所は、古くはバック・リュウ省カ・マウ郡タン・ロイ社 (xã Tân Lợi, quận Cà Mau, tỉnh Bạc Liêu), 現在のカ・マウ省トイ・ビン県ホォ・テイ・キイ社 (xã Hồ Thị Kỳ, huyện Thới Bình, tỉnh Cà Mau) に位置している。チャン・ダオ・クワンが土地を買い集め、協同で本道を行う運動を起こし、ゴック・サック静室 (Thành Thất Ngọc Sắc) を建設し、1932-1938年に同静室は修復され、1938年3月29日に落成式が営まれた。

「各聖座、カオダイ教の歴史遺跡」の「(ミン・チョン・ダオ聖会) ゴック・サック聖座」<sup>(25)</sup>によると、「1933年~1946年まで、ミン・チョン・ダオ聖会はバック・リュウ省ジャ・ライ県フォン・タイン・タイ社7 (ジイオン・ボム) 邑の地にあるゴック・ミン聖座におかれた。1946年3月14日、フランスが進攻しゴック・ミン聖座を損傷した。掌法チャン・ダオ・クワンは1930年からゴック・サック静室を建設し、1954年にいたって静室は正式にカオダイ・ミン・チョン・ダオ聖会のゴック・サック聖座としてカ・マウ省トイ・ビン県ホォ・テイ・キイ

社ソム・ソ邑に置かれた。聖会には4省に47の静室(2つは壊れている)が分布しており、カ・マウ省に最も多い23室が位置している。」と記されている。

引き続き多くの静室が建設され、バック・リュウ、ラック・ジャ、ハア・ティエンを含めて静室が点在していることが知られる。

## 2. タイニン聖座との決別

新しい各静室を創建したからといってチャン・ダオ・クワンに、新しい宗派を立てる意図はなかった。ただ、カオダイに関する自分の信仰を多くの他の信仰上の友に積極的に伝えるのみだった。各静室もタイニンのように礼拝し、同様の経典を使用し、職色系統を掲げていた。しかしながら、ゴック(玉)の字を持つ静室が連続してハウ・ザン(後江)の地区に創建されるようになると、新しい幾つかの問題が次第に出現するようになり、この各静室の教えは独立傾向を持つようになっていった。チャン・ダオ・クワンは、タイニン聖座に属さない多くの壇機(đàn cơ)にも常に変わることなく参加し仕えた。ただ、聖座の幾つかの決定に不満を表明していた。そのようなことから、タイニン聖座とチャン・ダオ・クワンとの間の親密な関係は次第に緩んでいった。信者たちが新しい静室でさまざまに壇機を設ければ、中にはタイニン聖座とは異なった託宣もありえ、齟齬をきたすこともあったものと思われる。

### (1) カオ・ティエン壇とミン・ティエン壇へのかかわり

1929~1932年、チャン・ダオ・クワンはラック・ジャにあったカオ・ティエン壇(Cao Thiên Đàn 高天壇)とバック・リュウにあったミン・ティエン壇(Minh Thiên Đàn 明天壇)の指導を引き受けた。チャン・ダオ・クワン60歳から63歳までの間である。

①カオ・ティエン壇<sup>(26)</sup>:後のミン・チョン・リイ聖会(Hội Thánh Minh Chon Lý)(ミイ・

トオ(Mỹ Tho)<sup>(27)</sup>の協天台(Hiệp Thiên Đài)であるカオ・ティエン壇にあって、チャン・ダオ・クワンは、機筆における高位職色の方とも親密になり、ホック・モンの靈光寺<sup>(28)</sup>で2~3回カオ・ティエン壇の壇機を立てた。

1930年に、ミン・チョン・リイが創設され、当初チャン・ダオ・クワンは協力していたものと思われる<sup>(29)</sup>。後にいたってチャン・ダオ・クワンはミン・チョン・リイと協同はしないが、依然として影響力があったことは明らかである。チャン・ダオ・クワンの最も典型的な指導例は、至尊(Đức Chí Tôn)や三教道祖(Tam Giáo Đạo Tổ)を称賛する各経典を選ぶに当たり、タイニン聖座の漢字の経典に代えて、カオ・ティエン壇で体蓮仙女(Đức Thê Liên Tiên Nữ)によって降された経典を使用したことである。この経典は当初ハウ・ザン聖会で日々唱える経典ともされた。

### ②ミン・ティエン壇<sup>(30)</sup>

チャン・ダオ・クワンは1929-1930年からミン・ティエン壇と密接に連携していた。チャン・ダオ・クワンはホア(Hoa)、ヴィエン(Viên)、ハイン・ゴック(Hạnh Ngọc)…等の名の童子(đồng tử)を通じてチュオン・ケェ・アン(Trương Kế An)(1899-1983)が提唱するこのミン・ティエン壇における各壇機に強い信頼を寄せていた。後に相次いで新しい静室が沢山造られるようになると、ミン・ティエン壇の「協天(Hiệp Thiên)」の部分は各地に立てられた壇機に及び、ゴック(Ngọc 玉)の字を名に持つ各静室(通常「清明忠勅旨(Sắc Chi Thanh Minh Trung)」と呼ばれる)に強い影響力を持つようになった。

1937年ハウ・ザン聖座が印行した『ミン・チョン・ダオ聖教』の16頁で、「ミン・チョン・ダオ」という長編の句が述べられている。「清明忠勅旨」は以下のような壇の例がある  
1933年11月12日 玉明壇(Ngọc Minh Đàn)において

1933年11月14日 玉勅壇 (Ngọc Sắc Đàn) において

1933年11月15日 玉旨壇 (Ngọc Chi Đàn) において

1933年11月16日 玉忠壇 (Ngọc Trung Đàn) において

1933年11月18日 玉誠壇 (Ngọc Thanh Đàn) において

この壇の2字目をつなげて読むと「明勅旨忠誠」となり、「勅旨への忠誠を明らかにする」となる。

1932年、チャン・ダオ・クワンはこれまで通りカオ・ティエンとミン・ティエンの双方の全ての壇に仕えていた。そして、チャン・ダオ・クワンに対してどのように対すべきかとか、後の中央聖座 (Tòa Thánh Trung Ương) であるデイン・トゥオン 静室 (Thánh Thất Định Tường) がどのような理由でミン・ティエン壇の多くの聖なる教えを出版することを承認したのか、チャン・ダオ・クワンは承知していなかった。『聖訓覚迷 (Thánh Huấn Giác Mê)』や『転迷開誤 (Chuyển Mê Khải Ngộ)』の各巻 (この各巻は発行数が多い) の中で、ラック・ジャでのカオ・ティエン壇の聖なる教えを記した。しかし、この内容は、『正教聖伝 (Chánh Giáo Thánh Truyền)』(1931年1月15日、バック・リュウ 静室発行) に反していた。

1932年7月24日夜に、ミン・チョン・リイ 聖会 (Hội Thánh Minh Chon Lý) の成立を確たるものとするために、「十五条規 (Thập Ngũ Điều Quy)」が頒布される前になっても、チャン・ダオ・クワンは聖会への参加決定を依然として明らかにすることをせず、上恩はデイン・トゥオン 静室 (Thánh Thất Định Tường) に降ると繰り返していた。

最後になって、師はミン・チョン・リイ 聖会に参加しないことを決定した。このことはカウ・コオ 静室 (Thánh Thất Cầu Kho) (この7月24日夜に職色に認められた) における諸位と異なったものであった。この時点から、チャン・

ダオ・クワンはより一層バック・リュウのミン・ティエン壇と更に親密になっていった。

## (2) タイニン聖座による審判

上述したように、各静室の教えは独立傾向を持つようになり、チャン・ダオ・クワンは、タイニン聖座に属さない多くの壇機にも変わることなく参加し、ミン・チョン・リイの分派活動にも協力し、カオ・ティエン壇で体蓮仙女によって降された経典を使用し、ついには『聖訓覚迷』や『転迷開誤』の各巻の中で、ラック・ジャでのカオ・ティエン壇の聖なる教えを記した。しかもこの内容は、『正教聖伝』に反していた。タイニンの職色内部における厳しい不和は、もはやチャン・ダオ・クワンの『法正伝』や『新律』<sup>(31)</sup>への違反を容認できるものではなかった。タイニン聖座派の三教の座 (Toa Tam Giáo) は、1932年8月16日 (壬申年7月15日) 特別に、審判に集い、判決を言い渡した。すなわち、タイ・カ・タイン (Thái Ca Thanh) フォイ・スウ (Phối Sư 配師) に対しては (刑罰第四条を犯したため) 3年間の権能の停止。ゴック・チュオン・ファップ・チャン・ダオ・クワンに対しては (刑罰第五条を犯したために) 1年間の権能の停止とされた<sup>(32)</sup>。別の多くの理由もあって、このことから師はタイニン聖座派に再び戻ることはなく、ハウ・ザン (Hậu Giang 後江) 方面の普度に関心を持つようになった。

## 3. ハウ・ザン聖会 (Hội Thánh Hậu Giang) の形成

### (1) 壇仙の開壇

1934年末、霊媒組織である「協天 (Hiệp Thiên)」の組織はミン・ティエン壇にあっては整ったとは呼べない状態であったが、規模から人事の多くまでが拡大していた。五行の座 (Ngôi Ngũ Hành Tòa) にあっての集中した生活は、ゴック・ミン壇 静室 (Thánh Thất Ngọc Minh Đàn) からおよそ1000m しか隔たっていなかった。1926年に遍く済度するためにサイゴン、

チャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) とカオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ (Cao Đài Minh Chơn Đạo) の形成過程

ジャ・デインで一斉に開かれた各壇の場合に似たような歴史を持っていた。バック・リュウヤカ・マウの(玉の字を持つ壇の傍に)開かれた壇仙 (đàn Tiên) は極めて多かった。バック・ズィユウ壇 (Bạch Diệu Đàn), ミン・カイン壇 (Minh Cảnh Đàn), カオ・ドゥック壇 (Cao Đức Đàn), フウエン・リン壇 (Huyền Linh Đàn), グェット・ミン壇 (Nguyệt Minh Đàn), トイ・ビン壇 (Thới Bình Đàn), ロン・クワン壇 (Long Quang Đàn) … 等がそうであった。

バック・リュウ, カ・マウ, ハア・ティエン, … 地区に新たに大量の静室が相次いで創生したことで, 教えの宗務を行うために各統括委員会 (Ban Cai Quản) を創設することとなった。各静室における人事も次第に各壇機を通して上恩の封を受けて聖会の職色 (教友 (Giáo Hữu) より上) は拡大していった。

## (2) ミン・チョン・ダオの最初の高僧 (高位の職色)

1930年は聖令が降りゴック・ミン・ジオン・ブオム聖座 (Tòa Thánh Ngọc Minh Giồng Bóm) の建設を始めていたため, 政策に多少ずれがあったが, 下記とは別の職色が, 1930年から1933年にいたるまでの間の最初のミン・チョン・ダオ聖会を形成した。

特に天封を得て1934年以前に最初に高位の職色に列した諸位は以下のごとくである。

1. ゴック・チュオン・ファップ (玉掌法): チャン・ダオ・クワン: (チュオン・クワン・クウ・チュン・ダイ (Chương quản Cửu Trùng đài 九重台掌官)

2. ゴック・ダウ・スウ (Ngọc Đầu Sư 玉頭師): ファン・ヴァン・ティエウ (Phan Văn Thiệu) 法名ゴック・ティエウ・ニユット (Ngọc Thiệu Nhứt)

3. ヌウ・ダウ・スウ (Nữ Đầu Sư 女頭師): グウエン・ティ・ニエン (Nguyễn Thị Nhiên) 法名ゴック・ニエン・フウオン (Ngọc Nhiên Hương)

4. タイ・ダウ・スウ (Thái Đầu Sư 太頭師): チュオン・ケエ・アン (Trương Kế An)

法名タイ・アン・グェット (Thái An Nguyệt)

5. タイ・チュオン・ファップ (Thái Chương Pháp 太掌法): カオ・チュウ・ファット (Cao Triều Phát)

(1934年以降に新たに受封した者)

6. ゴック・フォイ・スウ (Ngọc Phối Sư 玉配師): フウイン・ゴック・トン (Huỳnh Ngọc Tồn)

法名ゴック・トン・タイン (Ngọc Tồn Thanh)

そして, ゴック・ミン聖座の落成式の後, 各チュック・サックは西部各省のいたるところで普度に努力をした。その結果,

・カ・マウ省 (tỉnh Cà Mau): 23静室

・バック・リュウ省 (tỉnh Bạc Liêu): 11静室

・ソク・チャン省 (tỉnh Sóc Trăng): 4静室

・キエン・ジアン省 (tỉnh Kiên Giang) 11静室

信徒数は全派合わせておよそ10万人であった。

この時点までに, 新しい聖会, ミン・チョン・ダオ・ハウ・ザン聖会 (Hội Thánh Chơn Đạo Hậu Giang) を成立させるためのほとんどの条件は整った。

## (3) ハウ・ザン聖座の形成

聖会の成立に伴い, 最初に行ったことは, 中央の場所の聖地の地点を選ぶことであった。すなわちジオン・ボム邑にある聖座とゴック・ミン・ダン聖座を選び, ハウ・ザン聖座としたことである。一般的にはゴック・ミン・ダン聖座とか通俗的にはジオン・ボム聖座と呼ばれた。

ここでの問題点は, 聖会が成立した日を確定させるための歴史的資料が未だに発見されていないという点にある。幾つかの経典を根拠としての取りあえずの結論は, 1933年初めにハウ・ザン聖会が成立を得たというものである。このことをはっきりと証明する聖なる教えの中の一つは, 1933年11月12日ゴック・ミン壇における

チャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) とカオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ (Cao Đài Minh Chon Đạo) の形成過程

壇機で示された次の句にあった。(33)

「各子どもたちの師は、  
玉勅を(降さり)、新しい教えの家を開くこ  
とを明らかにし、  
南越の皇城は謳歌できる。  
上は聖意を下され、紙・仙は護り、  
帝は清山を殿とし、聖座を開設する。  
ミン・チョン・ダオ(真の教えを明らかにす  
る)  
後江聖座を師は立てられ、  
玄妙な機を開き、子どもたちを見守り連れて  
行く  
教えの心は、なお万劫に続き  
幼児たちに十分に気を配るよう諭す勅を降さ  
れた  
後江を諭された師の言葉は、学ばねばなら  
ない  
協和の字は、基礎であり、根源である  
太鼓を打ち鳴らし、鐘を高く投げ打ち文を覚  
えよ  
皮膚を切れば肉が痛むという道理は普通その  
子供にも・・・」

以上の詩は1937年ハウ・ザン聖座により発行された『ミン・チョン・ダオ聖教 (Thánh giáo Minh Chon Đạo)』3頁にある。下線をつけた字を縦に読むと、「玉皇上帝」となり、ミン・チョン・ダオ(真の教えを明らかにする)は神の託宣であることを示している。

もう一つの別の証明は、『玉明経 (Ngọc Minh Kinh)』(ミン・チョン・ダオ聖会1952年発行の中で、聖なる指令の一部が記されている点にある。

以上のことから、1933年初めに入ってハウ・ザン聖会成立を聖なる教えは確定しているが、1933年に入っているにもかかわらず、ミン・チョン・ダオに関しての上恩の教えもあった。この段階ではハウ・ザン聖会(あるいはハウ・ザン聖座)という名称が使用されていたことを示すものと解される。

ドン・タンもこの時期はゴック・ミン聖座と

称して、ミン・チョン・ダオとは称していない(34)。

また、『カオダイ教の初歩的考察 (Bước Đầu Tìm Hiểu Đạo Cao Đài)』133頁によれば、「1933年までに、ジイオン・ブウオムにハウ・ザン・ゴック・ミン・ダン聖座 (Tòa thánh Hậu Giang Ngọc Minh Đan) が成立し、ミン・チョン・ダオの中央機関となった。ここは極めて大きなカオダイ勢力を持っており、タイニン勢力になんら見劣りするものではなかった。1934年4月玉掌法チャン・ダオ・クワンの主催権の下で、カオ・チュウ・ファット長兄を主席として、ゴック・フック静室 (Thánh Thất Ngọc Phước) (ここはミン・ハイ省ホン・ザン県 (Huyện Hồng Dân) フック・ロン社) において各宗教の『教理共同大会 (Đại Hội Công Đồng Giáo Lý)』が開かれた。4日間に及ぶ大会の中でカオダイ教の各職色の15編の説法が行われた。仏教 (Phật Giáo), 浄土宗 (Tịnh Độ), キリスト教 (Thiên Chúa Giáo) …全てはみな統一団結して、正しく修行し、衆生を貧困から救わねばならない。カオ・チュウ・ファットはフランス植民地政権からバック・リュウ法廷に召致され、ハウ・ザン聖座の各宗教を団結させる方向が後の各段階でいっそう発展するであろうことを審問された。」ことが、ミン・チョン・ダオ・ハウ・ザン聖会により1994年印行されたゴック・サック静室の資料「カオダイ・ミン・チョン・ダオ・ハウ・ザン派 (1928-1994) の愛国と護道の伝統 (Truyền thống yêu nước và giữ đạo của phái Cao Đài Minh Chon Đạo Hậu Giang (1928-1994))」に記されているとしている。ともにミン・チョン・ダオという語句は聖会もしくは聖座を示す語、あるいは宗派名としては使用されていない。

#### おわりに

カオダイ教諸宗派の中でも最も先鋭な解放闘争を展開してきた愛国派の筆頭と目されている(35)カオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ聖会も、開祖チャン・ダオ・クワンが宗派を打ち立て

た1934年65歳までは何ら戦闘的な抗仏運動をうかがわせる動きも、社会主義的な思想も見られない。むしろ八月革命とカオ・チュウ・ファットが主導した1946年4月以降のジイオン・ボム戦線 (Mặt Trận Giồng Bóm) を待ってはじめて先鋭化していくものと思われる。その意味では、チャン・ダオ・クワンは13歳にして出家して五支明道の一つであるミン・ス道の普濟宗に学び、同派の最高位の太老師に上った。彼の思想と宗教者としての活動は優れて道教的な扶鸞あるいは扶乩という占術に基礎を置く清末からの結社運動の影響下に発展をし、ヴェトナム南部と中部に布教の地を得たものと推察される。この壇機における玉皇上帝の託宣から57歳でカオダイ教に入信し、壇機に通じていたがゆえに、高僧となり、多くの静室や壇仙を得、タイニン聖座からの判決を不服として自らの宗派を創設したと考えてよいものと思われる。ミン・チョン・ダオ聖会の成立が1933年とすれば64歳のときである。彼は純粋な宗教家としての人生を歩み、彼の思想や活動にはなんら政治的な動きはみられない。1946年2月17日77歳で登仙した。

なお、現在のカオダイ教は、機筆といわれる壇機を立てて神の託宣を伺うことは迷信として退けられている。平和の中での新しい宗教文化の創造が問われているものと思われる。

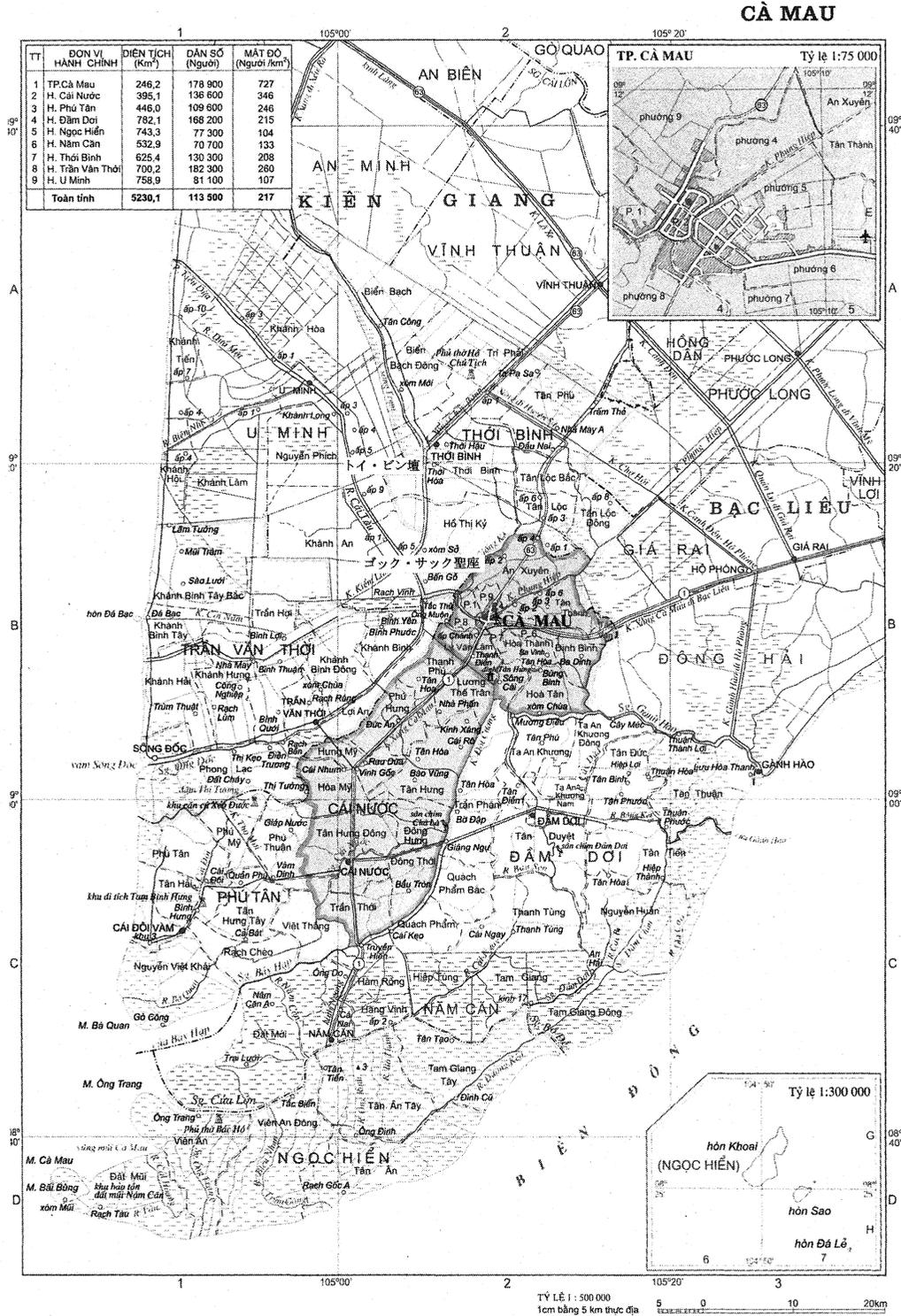
別表 カオダイ教各派の住所と代表者名と創立者名と創立年について

1	カオダイ・タイニン聖会								
	宗派名	代表者	Ngài Đầu Sư Thượng Tám Thanh						
	住所	創設者	Hội Thánh Cao Đài Tòa Thánh Tây Ninh Xã Long Thành Bắc, Huyện Hòa Thành, Tỉnh Tây Ninh						
2	カオダイ・バン・チン・ダオ聖会								
	宗派名	代表者	Hội Thánh Cao Đài Ban Chính Đạo				Nguyễn Văn Tấn (Tiếp Thế), Võ Văn Nho (Ngọc Chánh Phối Sư)		
	住所	創設者	100C Trương Định St., 6th Ward, Bến Tre				Đức Giáo Tông Nguyễn Ngọc Tương (Phối Sư)		
3	カオダイ・ミン・チョン・ダオ聖会								
	宗派名	代表者	Hội Thánh Cao Đài Minh Chon Đạo				Thái Đầu Sư Trần Đức Tăng		
	住所	創設者	Áp Xóm Sờ, Xã Hội Thi Kỳ, Huyện Thới Bình, Tỉnh Cà Mau				Ngọc Chương Pháp Trần Đạo Quang		
4	カオダイ・チュウ・ミン・ロン・チャウ聖会								
	宗派名	代表者	Hội Thánh Cao Đài Chiếu Minh Long Châu				Trần Văn Nhuận, Chánh Phối Sư Thanh Hồng Chon		
	住所	創設者	Xã Tân Phú Thạnh, huyện Châu Thành A, tỉnh Hậu Giang				Đức Nhi Thiên Võ Văn Phẩm		

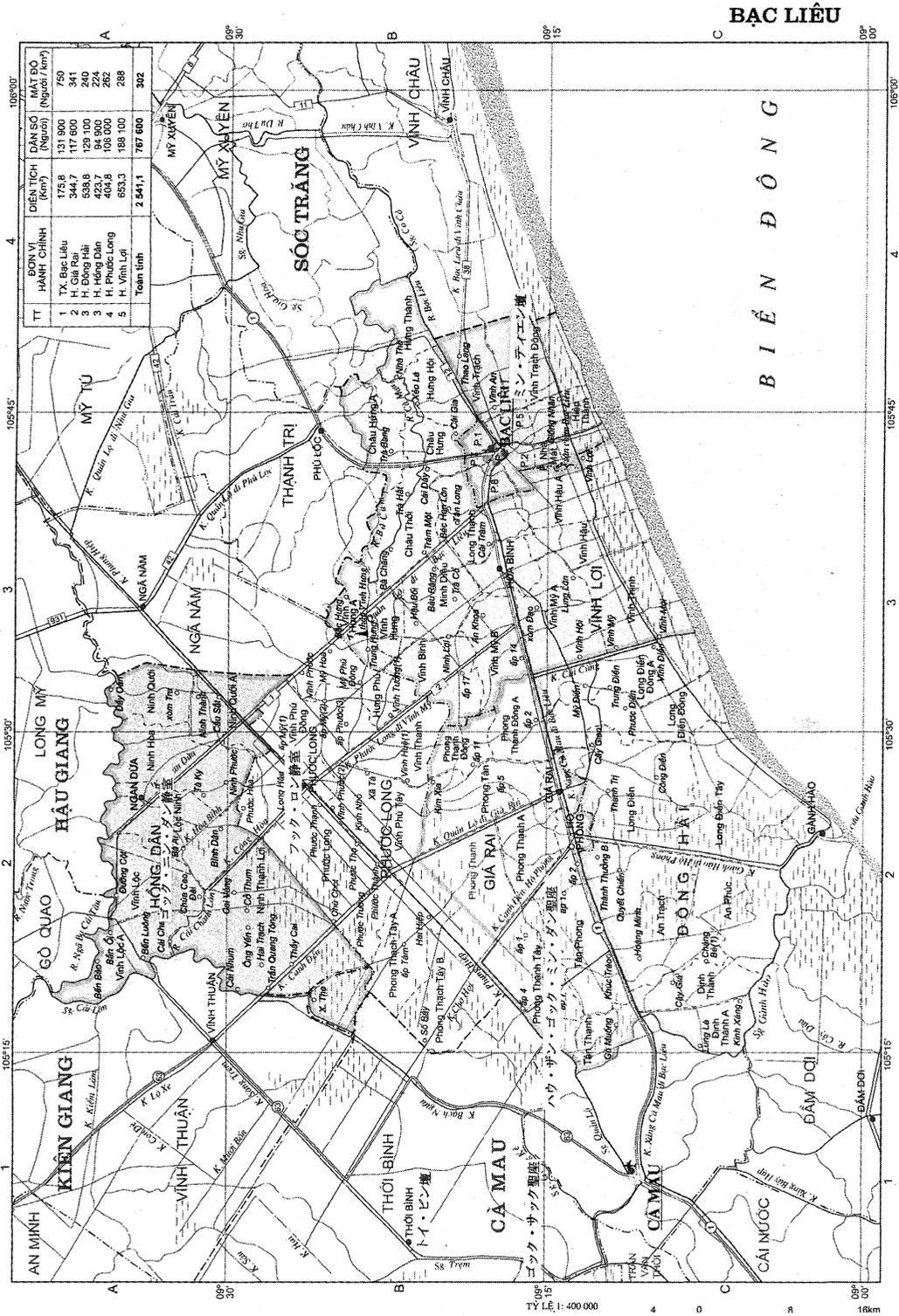
5	カオダイ・ダイ・ダオ・チュウ・ミン・タム・タイン・ヴォ・ヱイ		
宗派名	Cao Đài Đạo Chiêu Minh Tam Thanh Vô vi (Đàn thông linh khiêu)		
住所	創設者	Đức Ngô Minh Chiêu	
6	カオダイ・テイエン・テイエン聖会		
宗派名	Hội Thánh Cao Đài Tiên Thiên	Thượng Chánh Phối Sư Thượng Bảy Thanh	
住所	代表者	Đức Giáo Tông Phan Văn Tông	
7	伝教カオダイ聖会		
宗派名	Hội Thánh Truyền Giáo Cao Đài		
住所	63 Hải Phòng Thành Phố Đà Nẵng		
8	高尚ブウ・トア聖会		
宗派名	Hội Thánh Cao Thượng Bửu Tòa		
住所	18 Đống Đa, P2, TX. Bạc Liêu		
9	ナム・タイン聖座		
宗派名	Nam Thành TT (Cầu Kho)		
住所	124-126 Nguyễn Cư Trinh, Q1, Thành phố Hồ Chí Minh		
10	カオダイ真理聖会		
宗派名	Hội Thánh Cao-Đài Chơn Lý		
住所	193 Nguyễn Trung Trực, Thành Phố Mỹ Tho		
11	白衣蓮團真理聖会		
宗派名	Hội Thánh Bạch Y Liên Đoàn Chơn Lý		
住所	Mong Thọ B, Châu Thành, Kiên Giang		
12	カオダイ上帝聖会 (タイ・タイン聖座)		
宗派名	Hội Thánh Cao Đài Thượng Đế (Tay Thanh Tòa Thánh)		
住所	55 Nam Kỳ Khởi Nghĩa, Quận Ninh Kiều, Thành Phố Cần Thơ		
13	カウ・コホ・タム・クワン (ペン・デイン)		
宗派名	Cầu Kho Tam Quan (Bình Định)		
住所	TT Tam Quan, Huyện Hoài Nhơn, Bình Định		
14	大道教普及機關		
代表者	Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo		
住所	創設者	171B Cống Quỳnh, Phường Nguyễn Cư Trinh, Quận 1, T.P. Hồ Chí Minh	

チャン・ダオ・クワン (Trần Đạo Quang) とカオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ (Cao Đài Minh Chon Đạo) の形成過程

地図 1 カ・マウ省 (‘Tập Bản Đồ Hành Chính Việt Nam Administrative Atlas’, Nhà Xuất Bản Bản Đồ, p.79)



地図 2 バック・リユウ省 (‘Tập Bản Đồ Hành Chính Việt Nam Administrative Atlas’, Nhà Xuất Bản Bản Đồ, p.77)





カオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ聖会 (Hội Thánh Cao Đài Minh Chơn Đạo) のゴック・サック聖座 (Tòa Thánh Ngọc Sắc) 筆者撮影  
 カ・マウ省トイ・ビン県ホォ・ティ・キィ社ソム・ソ邑 (Áp Xóm Sờ, xã Hồ Thị Kỳ, huyện Thới Bình, tỉnh Cà Mau)



カオ・ダイ・ミン・チョン・ダオ聖会 (Hội Thánh Cao Đài Minh Chơn Đạo) のゴック・サック聖座 (Tòa Thánh Ngọc Sắc) 遠景 筆者撮影



ゴック・サック聖座 (Tòa Thánh Ngọc Sắc) 内主祭壇 筆者撮影



ゴック・サック聖座 (Tòa Thánh Ngọc Sắc) 内 玉掌法チャン・ダオ・クワン肖像画 筆者撮影

<注>

\* 星槎大学共生科学部

Email; s\_takatsu@seisa.ac.jp

- (1) Đồng Tân, 'Lịch Sử Cao Đài Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Phần Vô Vi (1920-1932)'. Cao Hiến Xuất Bản, Saigon, 1967 や Đồng Tân, 'Lịch Sử Cao Đài Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Quyển II Phần Phổ Độ (1926-1937)'. Cao Hiến Xuất Bản, Saigon, 1972, さらには, Trần Văn Rạng, 'Đại Đạo Sử Cương', Nhà buôn Tân Sanh, Saigon, 1970 や Trần Văn Rạng, 'Đại Đạo Sử Cương Quyển II', Nhà buôn Tân Sanh, Saigon, 1970 が代表的である。
- (2) 高津 茂 (1999) 「1946～1948年時のカオダイ教 (I) 一国教への夢」, 立教大学史学会『史苑』第60巻第1号 (通巻163号), pp.67-69 高津茂 (2005) 「解放後のカオダイ教」, 東洋大学アジア文化研究所『研究年報』第39号 pp.36-44参照
- (3) 聖座とはトア・タイン (Tòa Thánh) の訳語であり, 聖堂などとも訳されるが, その宗派の本山をあらわすことが多いので, 原意に倣って「聖座」と訳す。
- (4) 2010年8月末～9月初めの筆者の調査によると, 別表のとおりである。タイニン聖派の創設者はレエ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung) とすべきところをファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) とするなどの誤謬もあるが, 調査時に書いていただいたままに整理した。
- (5) Nguyễn Thanh Xuân 'Một Số Tôn Giáo ở Việt Nam', Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007 や Phạm Bích Hợp, 'Người Nam Bộ và Tôn Giáo Bán Địa (Bửu Sơn Kỳ Hương - Cao Đài - Hòa Hảo)', Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2007 等が代表的成果と思われる。
- (6) バン・チン・ダオ (Hội Thánh Cao Đài Ban Chinh Đạo) とミン・チョン・ダオ (Hội Thánh Minh Chon Đạo) とティエン・ティエン (Hội Thánh Cao Đài Tiên Thiên) と教理普及機関 (Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý) が委員を出して正配師 (Chánh Phối Sư) ゴック・ニョオ・タイン (Ngọc Nho Thanh) と頭師 (Đầu Sư) タイ・タン・ティ

ン (Thái Tăng Tinh) と正配師トゥオン・バイ・タイン (Thượng Bái Thanh) が編集会議を代表して『カオダイ雑誌 (Tạp chí Cao Đài)』が2009年6月に第1号が発行され, 2010年7月までに4号が発行されている。なお, 第3号から編集委員に「伝教カオダイ聖会 (Hội Thánh Truyền Giáo Cao Đài)」と「チュウ・ミン・タム・タイン・ヴォ・ヴィ (Cao Đài Đại Đạo Chiêu Minh Tam Thanh Vô Vi)」と「カオダイ・チュウ・ミン聖座ロン・チャウ (Hội Thánh Cao Đài Chiêu Minh Tòa Thánh Long Châu)」が加わっている。さらに, カオダイ教の歴史について, 教理普及機関が専論した大著として, Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo, 'Lịch sử Đạo Cao Đài Quyển I KHAI ĐẠO Từ Khởi Nguyên Đến Khai Minh', Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2009 や Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo, 'Lịch sử Đạo Cao Đài Quyển II TRUYỀN ĐẠO Từ Khai Minh Đến Chia Chi Phái (1926-1938)', Nhà Xuất Bản Tôn Giáo, Hà Nội, 2008 がある。

なお, アメリカ合衆国国務省の Bureau of Democracy, Human Rights, and Labor の International Religious Freedom Report 2009 (October 26, 2009), Section II . Status of Government Respect for Religious Freedom によれば, 「ヴェトナム政府は, 全ての宗教出版物は, はじめに政府が提案された作品を承認してから宗教問題に関する国家出版局の一部である宗教出版社もしくは政府が許可した出版社から公刊される。」現況にあるため上述した公刊物も大部分が Nhà Xuất Bản Tôn Giáo の出版となっている。

- (7) Tran My Van (1996) "Japan and Vietnam's Cao daists: A Wartime Relationship (1939-45)", Journal of Southeast Asian Studies 27, 1 (March 1996) National University of Singapore : pp.179-193 Tran My Van, 'A Vietnamese Royal Exile In Japan Prince Cuong De (1882-1951)', Routledge, London & New York, 2005 などに代表される。

- (8) 28名の名前と職業は, Viện Nghiên Cứu Tôn

- Giáo, 'Bước Đầu Tìm Hiểu Đạo Cao Đài', Nhà Xuất Bản Khoa Học Xã Hội, Hà Nội, 1995 pp126-127 を参照
- (9) 「玉掌法」とは、カオダイ教の「九重台」という宗務機関の高官の職位を示す。「掌法」には道教・儒教・仏教の三派の「掌法」があり、「玉掌法」とは道教を代表する「掌法」を意味する。高津 茂 (1986) 『『法正伝注解』訳考〔1〕—カオダイ教聖典の考察—』, 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所『研究年報』第21号, 1987年, pp.19-21参照
- (10) チャン・ダオ・クワンの小史については、筆者は未見であるが、Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), p.488 の注に, Hàng Sơn, “Lược Sử Đức Ngọc Chương Pháp Trần Đạo Quang” という書名のみが示されている。
- (11) Thiện Tâm (2009), “Quá Trình Hình Thành và Phát Triển của Hội Thánh Cao Đài Minh Chon Đạo”, ‘Tập Chí Cao Đài’ Số 1, pp.41-44
- (12) ミン・ス (Minh Sư) とは、中国の明朝時代に起源を持つ五支明道 (Ngũ Chi Minh Đạo) の一つで、嗣徳帝の時にヴェトナムに伝わってきたものである。なお五支明道の五支とは、ミン・ス, ミン・ドゥオン (Minh Đường), ミン・リイ (Minh Lý), ミン・ティエン (Minh Thiện), ミン・タン (Minh Tân) のことである。ヴェトナムに伝わってからミン・ス道には、ドゥック・テエ宗 (Tông Đức Tế), フォ・テエ宗 (Tông Phổ Tế), ホアン・テエ宗 (Tông Hoàng Tế) の3つの支流がある。
- (13) カオダイ教では僧侶をチュック・サック (職色) という。本稿では、原意に倣って「職色」の語を用いる。
- (14) 「壇に仕える」とは、神仙が霊媒の持つ筆記具、または霊媒自身に憑依して筆記を行い、託宣を示す「フウ・ティエン (Phù Tiên 附仙)」とか「フン・ブット (Phụng Bút 奉筆)」を行うことを意味する。高津 茂 (2010) 「近世ヴェトナムの「万教合一論」—カオダイ教聖典「聖言 (Thanh Ngôn)」についての基礎的考察 (1) —」『共生科学』第1巻, pp103-109 参照
- (15) 「玉皇上帝」はカオダイ教の最高神であるが、玉皇大帝や玉皇信仰の起源については、砂山稔「玉皇大帝と宋代道教—蘇軾を中心にして—」, 編集代表野口鐵郎 講座道教第一巻『道教の神々と経典』雄山閣出版, 平成11年11月5日発行, 55-74頁 参照
- (16) Viện Nghiên Cứu Tôn giáo (1995), pp 126-127 と Werner Jayne Susan, 'The Cao Dai :The Politics of A Vietnamese Syncretic Religious Movement'. A Thesis Presented to the Faculty of the Graduate School of Cornell University for the Degree of Doctor of Philosophy, 1976, pp.574-582 によれば, 4人はともにカオダイ創設申請書に署名した人物。レ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung) はチョ・ロン在住の五等宝旌を受賞した元上議員。事業主。後のタイニン聖座派の創設者であり, カオダイ教のザオ・トン (Giáo Tông 教宗)。レ・バァ・チャン (Lê Bá Trang) はソク・チャンで生まれチョ・ロンで働いていた監督官吏。後正配師となり, バン・チン・ダオに参加した。ヴウオン・クワン・キイ (Vương Quang Kỳ) はサイゴンで働いており, 知府であった。ミン・ティエン (Minh Thiện) 道に属していた。カオ・クウイン・クウ (Cao Quỳnh Cu) は, 鉄道局の書記官としてサイゴンで働いていた。チャン・ダオ・クワンはジャ・ディン (Gia Định) に住いを持っていたので, 近くなので壇機などの降霊の会に招かれたものと推察され, これがカオダイ教への参加のきっかけとなったものと思われる。
- (17) 扶鸞あるいは扶乩とよばれる, 自動筆記による神からの託宣を得る中国古来の占術が, 19世紀末から20世紀初頭のヴェトナム南部で盛んであった背景には, 清末の扶鸞結社運動の影響があったものと筆者は思っている。志賀市子「近代中国における扶鸞結社運動—台湾の「鸞堂」を中心に—」, 編集代表野口鐵郎 講座道教第五巻『道教と中国社会』雄山閣出版, 平成13年2月5日発行, 237-258頁 参照。また, 志賀市子

は「カオダイ教の「機筆」が、中国の乩筆を原型としていることはほぼ間違いないだろう。」としている。(志賀市『中国のこっくりさん 扶鸞信仰と華人社会』あじあブックス, 大修館書店, 2003年11月20日発行, 232頁)

- (18) リン・クワン・トゥ (Linh Quang Tự 靈光寺) は、ミン・ス道太老師 (Thái Lão Sư) チャン・ダオ・クワンのグループであるフォ・テエ宗 (Tông Phổ Tế) に属するリン・クワン・ドゥオン (Linh Quang Đường 靈光堂) のことと思われる。リン・クワン・トゥは、ホック・モン (Hốc Môn) に位置する。なお、フォ・テエ宗 (Tông Phổ Tế) に属する堂にはほかにカイ・ライ (Cai Lậy) にロン・ホア堂 (Long Hoa Đường) やミイ・トオ (Mỹ Tho) にフォ・ホア堂 (Phổ Hòa Đường) がある。
- (19) グウエン・ゴック・トゥオンはバン・チン・ダオ聖会の創設者であり、同派の教宗となった。同氏については、'Phông Đề Lược Sử Đức Giáo Tông Nguyễn Ngọc Tương', "Tập Chí Cao Đài", Số 4, 7-2010, pp.65-71 参照
- (20) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), p.488  
但し, Viện Nghiên Cứu Tôn Giáo (1995), p.128 には、同地区の布教担当者はチャン・ダオ・クワンのほかはレエ・ヴァン・チュン (Lê Văn Trung) とグウエン・ゴック・トオ (Nguyễn Ngọc Thơ) が布教担当であり、カオ・クウイン・クウ (Cao Quỳnh Cư) とファム・コン・タック (Phạm Công Tắc) がフォ・ロアン (Phò loan 扶鸞) を担当したとある。
- (21) 「静室」とは、元々は五斗米道の懺悔の空間であり、信者が罪の懺悔告白と神々への祈りや修行のための宗教行為を行う施設のことである。田中文雄「儀礼の空間」編集代表野口鐵郎 講座道教第二巻『道教の教団と儀礼』雄山閣出版, 2000年5月5日発行, 93-115頁 参照
- (22) Nguyễn Thanh Xuân (2007) pp.317-318 に、「南部区域はカオダイ教の各チュック・サク (chức sắc 職色) の布教重点である。このため、カオダ

イ教の各職色は、「愛国精神を持ったカオダイ教は民族宗教である」と訴えたり、教えに従う人を秘めるためにコ・ブット (Cơ Bút 機筆) の神秘を徹底して開拓したりすると訴えられた。特にカオダイ教の各職色は、農村部においては教えに従う各地主耆豪をひきつけ、都市部においては、教えに従う各公務員、知識人をひきつけることを重視していた。この勢力に対しては、教えに入った時に、彼らはみな教えの中で地位を得るために職色の列に加えられ、カオダイ教の影響力を増やしたり、彼らを通して小作人や教えに入る権限下にある人をひきつけたりする。教えに従い、各グウエン・ヴァン・カ (Nguyễn Văn Ca) (ミイ・トオ (Mỹ Tho)), ファン・ヴァン・トン (Phan Văn Tông) (ヴィン・ロン (Vinh Long)), カオ・チュウ・ファット (Cao Triều Phát) (バック・リュウ (Bạc Liêu)), ヴォ・ヴァン・タム (Võ Văn Tâm) (カン・トオ (Cần Thơ)) ... は、メコン・デルタ地区の農民のかなり多くの支持をカオダイ教にもたらした。この時期南部において、ことのほかカオダイ勢力は急速に増加した。それは、南部の秘密結社をかつて支持していた、あるいは参加していた人たちや、五枝明道 (Ngũ chi Minh đạo) の信徒や職色の方々の参加を得たためである。特にサイゴン-チョ・ロン (Chợ Lớn) 地区において、カオダイ教は大知識人の公務員や社会活動に参加していた人たちの支持を得ていた。特にブイ・クワン・チュウ (Bùi Quang Chiêu), グウエン・ファン・ロン (Nguyễn Phan Long), ズウオン・ヴァン・ザオ (Đương Văn Giáo)... 各氏のような立憲運動の指導者たちの支持を得ていた。」とある。

- (23) Bómはこの地域に多く生えている親水性の野生の棘のある植物の名であり、Giồng Bướm とか Giồng Bón とか記されているのは正しくないとの注が Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), p.491 にある。
- (24) Thiên Tam (2009), p.42 にも、「バック・リュウ省ジャ・ライ (Giá Rai) のフォン・タイン

(Phong Thanh) のジイオン・ブウオム (Giông Bướm) に行かれ、師は寺主に働きかけた。すなわちグウエン・ヴァン・ギイ (Nguyễn Văn Nghi) と彼の弟のグウエン・ヴァン・ズウオン (Nguyễn Văn Dương) はカオダイ教に寺を献上し土地を寄進した。これによりゴック・ミン聖座 (Tòa Thánh Ngọc Minh) を1930年から建設し1934年庚戌年7月14日にいたって聖座の落成式が組織された。」とある。

(25) ‘Các Tòa Thánh Di tích Lịch sử Đạo Cao Đài’, “Tạp Chí Cao Đài” Số 1, p.80 参照

(26) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), p.493 に、カオ・テイエン壇に対する注が以下のように記されている。「1932年ミン・チョン・リイ中央聖座が印行した『聖訓覚迷 (Thánh Huân Giác Mê)』第5巻5・7頁に、1931年1月21日と1932年7月5日にミン・ス道普濟宗 (Tông Phổ Tế) の祖亭である靈光寺にあってカウ・コオ (Cầu Kho) の道友を聖 (Thánh) に封じた玉皇上帝の二編の聖言を含んでいた。」

(27) Nguyễn Thanh Xuân (2007), p.324 に、「カオダイ・ミン・チョン・リイ (Cao Đài Minh Chon Lý) は、グウエン・ヴァン・カア (Nguyễn Văn Ca) が1930年に創立し、ミイ・トオにト・ディン (祖亭) 聖座を持ち、主にミイ・トオやゴ・コン (Gò Công) ... で活動している。」とある。

(28) 注15参照

(29) Đồng Tân (1972), pp.395-396 によると、「1934年まで、ハウ・ザン・ミン・チョン・リイ聖座 (Tòa Thánh Hậu Giang Minh Chon Lý) は、五枝 (Ngũ Chi) をあわせ、依然として名声ある多くの職色の参加を得てにぎやかな活動をしていた。九重台掌官 (Chương Quán Cửu Trùng Đài) は玉掌法チャン・ダオ・クワンと玉頭師 (Ngọc Đầu Sư) ゴック・ティエウ・ニュット (Ngọc Thiệu Nhựt) の二人により、協天台掌官 (Chương Quán Hiệp Thiên Đài) は天師 (Thiên Sư) グウエン・フウ・フン (Nguyễn Hữu Phùng) と、さらに外交院長 (Viện Trưởng Ngoại Giao) であるカオ・チュウ・ファット (Cao Triều Phát) であった。

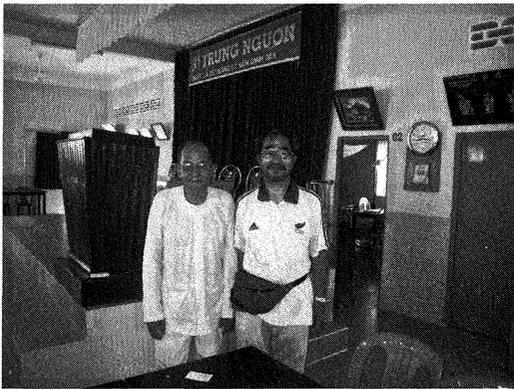
しかし、1935年(?)にいたって、天師フンが、孝養を尽くす(心臓部と十五に上る靈魂を礼拝する)方法から時代に合うように変える機筆 (cơ bút) の命令を受け、当初は『法正伝 (Pháp Chánh Truyền)』と『新律 (Tân Luật)』に正しく信奉するという教えに服していなかったが、それでサイゴンのカウ・コ・グループ (nhóm Cầu Kho) に属する諸職色がミン・チョン・リイから離脱した。それに引き続いたのが、チャン・ダオ・クワン、ゴック・ティエウ・ニュット、カオ・チュウ・ファットであり、彼らも同派から足を抜いた。」とあり、時期的にはいささかのずれがあるが、チャン・ダオ・クワンが一時期とはいえミン・チョン・リイの九重台掌官という高位にあったことが知れる。また、Phạm Bích Hợp (2007), pp.280 には、「師はグウエン・ヴァン・カ (Nguyễn Văn Ca) と一緒に協力してミン・チョン・リイ聖会 (Hội Thánh Minh Chon Lý) を創設した。しかし、ミン・チョン・リイ派が、『法正伝 (Pháp Chánh Truyền)』と『新律 (Tân Luật)』に正しく従わないと改変したあと、師はゴック・ダウ・ス (Ngọc Đầu Sư 玉導師) ゴック・ティエウ・ニュット (Ngọc Thiệu Nhựt) と外交委員長 (viện Trưởng Ngoại giao) カオ・チュウ・ファット (Cao Triều Phát) とともに1935年にいたって分かれてミン・チョン・ダオを創設した。」とあり、チャン・ダオ・クワンがミン・チョン・リイ聖会の設立に当たり、少なからざる協力をしていることを跡付けている。

(30) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), p.493 に、ミン・テイエン壇に対する注が以下のように記されている。「ミン・テイエン壇はチュオン・ケエ・アン (Trương Kế An) によって、バック・リュウ省ヴィン・ロイ県ヴィン・チャック社アン・チャック・ドン (An Trạch Đông, xã Vĩnh Trạch, huyện Vĩnh Lợi, tỉnh Bạc Liêu) に立てられた。同地はチュオン・ケエ・アンの叔父のチュオン・ヴァン・カン (Trương Văn Cán) が献上した土地である。」

(31) 高津 茂 (1986), 「カオダイ教の『新律』に

ついて 「カオダイ教聖典の考察」, 立教大学史学会『史苑』第45巻第1号 (通巻134号), 「第7章 刑罰について」62-63頁と, 高津 茂 (1987), 「掌法の権能」19-21頁参照

- (32) Thiện Tâm (2009), p.41
- (33) Đại Đạo Tam Kỳ Phổ Độ Cơ Quan Phổ Thông Giáo Lý Đại Đạo (2008), pp.500-501
- (34) Đồng Tân (1972), pp.395-396
- (35) Trần Hồng Liên, 'Đạo Cao Đài và Tinh Thần Dân Tộc trong Hai Thời Kỳ Kháng Chiến', Tạp Chí Cao Đài, Số 1, 2009. p.16



師チャン・ドゥック・タン (Trần Đức Thắng) と筆者 ゴック・サック聖座にて 筆者撮影

チャン・ドゥック・タン氏はミン・チョン・ダオ聖会 (Hội Thánh Minh Chon Đạo) 代表であるとともに, ヴェトナム祖国戦線中央委員, カ・マウ省戦線委員, 中央戦線宗教諮問会議員を務めた経歴を持っている。